

# 神崎隆洋さん

文◎神野重房 撮影◎南條良明

演奏する神崎さん。多忙なため毎日とはいがなない  
が、少しでも時間を見つけるとオルガンに向かう  
という。レパートリーは約50曲。

かねてより噂には聞いていた。が、  
わかには信じられずにいた。「自宅  
に巨大なパイプオルガンを持つている  
人がいる」——こんな話、そう簡単に  
信じられるだろうか?



「いつかパイプオルガンのある家を造りたい……  
そんな途方もない夢を実現するため、  
男は建築家になつた。」

当初はそのことを紹介する小さな新  
聞記事しか手元なく、持ち主を特定  
することもできずにいた。その後、あ  
るルートから持ち主が判明。となれば  
取材しないわけにはいかない。『自宅  
にパイプオルガンを持つ男』とは、い  
かなる人物か?

パイプオルガンの持ち主は、都内に  
住む建設会社のオーナーにして一級建  
築士の神崎隆洋さん。実はこの方、建  
築界ではけっこう有名で、無垢の木と  
漆喰を特徴とする独自の「ビノックス  
工法」による自然派注文住宅を手掛け、  
既に数多くの実績を残している。『い  
い家は無垢の木と漆喰で建てる』とい  
う著書まであるほどで、建築にかける

情熱は並々ならぬものがあるのだ。  
その神崎さんの自邸兼モデルハウス  
(ー)に招じ入れられた。無垢の木と  
漆喰の感触がなんとも心地いい。玄関  
から続く階段を上つて辿り着いたリビ  
ングに一步入った途端、私は目を見張  
った。一面の壁を巨大な何かが埋め尽  
くしている。高さは人の背丈の2倍は  
あるだろうか。それが件のパイプオル  
ガンだった。私は一瞬、絶句した。そ  
の存在感に圧倒され、言葉もなかつた  
のである。

しかし、である。小ぶりだとはいえ、  
やはり絶対的に大きい。神崎邸のリビ  
ングは、まるで小さな教会のようだ。  
個人用のパイプオルガンはずつと小ぶ  
りで、日本でも数人が所有しているの  
ではないか、とのこと。

パイプオルガンと聞いて普通イメ  
ジするのは、音楽ホールや教会に設置  
された途方もなく巨大、かつデコラテ  
ックな楽器だと思う。が、あれはあく  
までもホールや教会と一体になって設  
計されたもので、パイプオルガンの頂  
点に位置するもの。神崎さんによると、

「ええ。実際、よくここで演奏会を行  
っています。毎年春と秋には、クラシ  
ック音楽を演奏する『秋窓の音楽祭』  
の会場にもなっていますし、プロの演  
奏家の方や海外のアーティストもよく  
来ますよ。もちろん、クリスマスには



この圧倒的な存在感。「パイプオルガンは楽器の王様です」という神崎さんの言葉に、筆者はただ頷くばかり。審美眼的な目で見ても、また頷くばかり。

男の音楽空間  
音楽趣味人の部屋